

## II 環境関連の主な事業 (参考資料)



# ●計画の体系

戦略の方向		個別目標(施策)
目標が達成された姿		
<b>基本戦略① 市民自治社会創造</b>		
1-1. 市民と行政が協働する「山の湊」を創る		
1-1-1 市民参加や協働がしやすい環境が整っている	重点 1-1-1-1. まちづくりの協働体制を整備します	重点 1-1-1-2. 情報の発信と共有を進めます
1-1-2 広域連携・交流が進んでいる	重点 1-1-1-3. 市民ニーズを把握します	1-1-2-1. 広域連携・交流を進めます
1-2. 市民が主役の「山の湊」を創る		
1-2-1 市民が主体的に地域の課題を解決しようとしている	重点 1-2-1-1. 市民活動を応援します	重点 1-2-1-2. 地域内分権の担い手を組織します
1-2-2 市民同士の交流や融和が進んでいる	1-2-2-1. 市民交流を進めます	1-2-2-2. 市民融和を進めます
1-2-3 男女共同参画の意識が浸透している	1-2-3-1. 男女共同参画社会をつくります	1-2-3-2. 男女平等意識の浸透を進めます
1-2-4 国際化への対応が進んでいる	1-2-4-1. 多文化共生を進めます	1-2-4-2. 国際交流活動を応援します
<b>基本戦略② 自立創造</b>		
2-1. 地域の魅力を発信する「山の湊」を創る		
2-1-1 市内に多くの人々が訪れている	重点 2-1-1-1. 地域資源を活かした観光戦略を進めます	2-1-1-2. 観光施設を有効に活用します
2-1-2 光ファイバーネットワークを活用した情報の受発信が盛んである	重点 2-1-2-1. 利用可能な情報システムの拡大を進めます	2-1-2-2. 光ファイバネットワークを有効に活用します
2-2. 活気や賑わいを生み出す「山の湊」を創る		
2-2-1 森林が適正に管理され、林業が営まれている	重点 2-2-1-1. 森林の保全・整備を進めます	2-2-1-2. 林業生産活動を応援します
		2-2-1-3. 林業基盤の整備を進めます
2-2-2 地産地消や消費者交流など、生命をつなぐ魅力ある農業が営まれている	重点 2-2-2-1. 農業生産物の消費拡大を進めます	2-2-2-2. 農業生産活動を応援します
		2-2-2-3. 農業基盤の整備を進めます
2-2-3 まちの賑わいと働く場が確保されている	2-2-3-1. 魅力ある商店街づくりを応援します	重点 2-2-3-2. 企業誘致を進め、雇用を確保します
		2-2-3-3. 頑張る中小企業を応援します
2-3. 人が集い暮らす「山の湊」を創る		
2-3-1 快適に移動できる交通体系が整備されている	重点 2-3-1-1. 公共交通網の整備と利用向上を進めます	2-3-1-2. 道路網の整備を進めます
2-3-2 快適に暮らせるまちになっている	2-3-2-1. 活気がある市街地をつくります	2-3-2-2. 安全な水を届けます
		2-3-2-3. 下水を処理し水環境を守ります
		2-3-2-4. 公園、墓園の整備を進めます
	重点 2-3-2-5. 良質な住宅の整備を進めます	
2-4. 地域の文化と人を育む「山の湊」を創る		
2-4-1 歴史文化財が継承・活用されている	2-4-1-1. 歴史文化財を継承します	2-4-1-2. 歴史文化財の紹介・活用を進めます
2-4-2 子どもが健やかに育っている	2-4-2-1. 確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます	2-4-2-2. 地域ぐるみで青少年の健全育成を進めます
2-4-3 いつでも学べる場が用意され、文化・スポーツ活動が盛んに行われている	2-4-3-1. 市民文化活動を応援します	2-4-3-2. 市民スポーツ活動を応援します
		2-4-3-3. 生涯学習活動を応援します
<b>基本戦略③ 安全・安心の暮らし創造</b>		
3-1. 健康に暮らせる「山の湊」を創る		
3-1-1 地域の医療体制が整っている	重点 3-1-1-1. 病院、診療所の体制を整えます	重点 3-1-1-2. 地域医療の連携を進めます
3-1-2 みんなが健康づくりに努めている	3-1-2-1. 予防医療を進めます	3-1-2-2. 健康づくりを応援します

3-2. みんなで支え合う「山の湊」を創る	
3-2-1 地域で子育てを応援する意識が広がっている	重点 3-2-1-1. 子どもを生む環境を整えます 重点 3-2-1-2. 子どもを育てる環境を整えます 重点 3-2-1-3. 保育ニーズに対応する保育サービスを進めます
3-2-2 誰もが生きがいを持って社会に参加している	重点 3-2-2-1. 地域内福祉・相互扶助活動を進めます 3-2-2-2. 高齢者の生きがい対策を進めます 3-2-2-3. 障害者の自立を支援します
3-3. 安全に暮らせる「山の湊」を創る	
3-3-1 災害に強いまちづくりができている	重点 3-3-1-1. 地震・防災対策を進めます 重点 3-3-1-2. 災害対応能力を強化します 重点 3-3-1-3. 消防体制を強化します
3-3-2 地域ぐるみの安全対策が進んでいる	3-3-2-1. 防犯活動を進めます 3-3-2-2. 交通安全対策を進めます 3-3-2-3. 消費者支援活動を進めます
基本戦略④ 環境首都創造	
4-1. 環境首都「山の湊」を創る	
4-1-1 環境への理解が浸透している	4-1-1-1. 地域の環境を学びます 4-1-1-2. 地域の環境を調査し紹介します
4-1-2 良好な自然環境が保全されている	4-1-2-1. 農村環境を保全します 4-1-2-2. 森林環境を保全します 4-1-2-3. 水辺環境を保全します
4-1-3 地球温暖化に向けた循環型のライフスタイルが浸透している	重点 4-1-3-1. 循環型社会への取り組みを進めます 4-1-3-2. 廃棄物の適正処理を進めます

## ●事業の評価※1

①必要性	法令実施など、公共領域の検証、行政関与の妥当性
②有効性	因果関係(ロジック)の妥当性、成果目標の妥当性
③効率性	費用対効果の向上性
④公平性	受益の偏向性
⑤適時性	緊急性・時宜性、優先度

5つの視点で  
4段階評価を行い  
総合評価に分類

点数	必要性	有効性	効率性	公平性	適時性
3	市が関与する必要性が高い	指標が適切で成果も高く、因果説明ができる	経費節減・効率性等の向上・追求はほぼ不可能	受益者が広く公平であり、負担も適正	緊急性があり、市民ニーズ高く重点PJに採用
2	市が関与する必要性は普通	指標は適切だが成果が十分でない(因果は推測可能)	経費節減・効率性等の向上・追求の可能性が少ない	受益者が広く公平であるが、負担の見直し余地有り	緊急ではないが時宜性が高い
1	市が関与する必要性は低い	指標が不適切だが高い成果を期待できる(指標見直し予定有り)	経費節減・効率性等の向上・追求が可能	受益者が狭く公平にやや欠け、負担も見直し余地有り	懸案なるも時宜性が十分でない
0	市が関与すべきでない	指標が不適切で成果が高いと期待できない(指標見直し不明)	-----	受益者が一部に偏り、公平性に欠ける	市民ニーズが不明(未調査)で時宜性に欠ける

総合評価	目安(各項の条件がどれか1つに該当し、かつ上位評価の条件でないこと。)	事業見直しの必要度
A	●総合点12点以上、かつ必要性・有効性2点以上	事業見直しの必要度が低い (計画どおり継続実施など)
B	●総合点8点～11点、かつ必要性・有効性2点以上 ●必要性3点 ●適時性3点	(見直しの実施) 
C	●総合6～7点、かつ必要性・有効性2点以上	
D	●総合点5点以下 ●総合点8点以下、かつ必要性・有効性1点以下	事業見直しの必要度が高い (休・廃止、入れ替えなど)

## ●環境視点分類※2

- 「環境事業」 : 事業そのものが環境保全や環境改善を目的とするもの
- 「環境関連事業」 : 事業の実施により環境が改善される要素を持つもの(一部でも可)  
事業の執行過程で特別な省エネ・省資源活動を実施するもの
- 「一般事業」 : 事業の執行過程で通常の省エネ・省資源活動を実施するもの

## ●環境に配慮した施策の展開

～環境負荷の軽減 環境保全など～

【結果】以下のうちいずれかを選択する

- ・環境に配慮している
- ・一部課題がある
- ・課題がある

【理由・内容】

上記を選択した理由、どういった配慮をしたのか、どういった課題があるのかを記入する

※記入例

	環境事業	環境関連事業	一般事業
環境に配慮している	○森林整備事業 ・植林や育成林の間伐等の取組みにより、森林が果たす公益的機能の維持増進やCO2吸収源としての育成林の確保維持に大きく寄与している 等	○野外学習会事業 ・地域の豊かな自然環境を学ぶことで、環境保全や環境負荷軽減への意識が芽生える 等	・会議をパワーポイント等による説明にすることで、配布資料の削減 ・出張の際に、極力公用車の使用を避け、公共交通機関を利用している 等
一部課題がある	○廃棄物収集運搬・収集処理事業 ・市内の可燃ごみの収集回数を増やすことで住環境が改善されているが、一人当たりの可燃ごみ量の削減にはいたっていない 等	○公共バス ・より多くの人々が利用できるようにすることで、CO2の排出量削減を図るが、利用者が少ない 等	・コストは掛ってしまうが、環境に優しい〇〇を利用している 等
課題がある			・コストは安価であるが、再利用(リサイクル)ができない〇〇を使用している ・施設の冷暖房が一括電源となっているため、電気の無駄遣いがされている 等

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	1	地域の環境を学びます					
基本方針	子どもから高齢者まで、多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう、野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 野外学習会開催事業		参加者の満足度	-	93%	80%	参加者の満足度/目標値×100	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	2				
		有効性	3				
		効率性	2				
		公平性	3				
		適時性	2				
		21年度総合評価	12				
		担当課判定	A				
		環境視点分類※2		《基本事業の目的》 新城市の豊かな自然に接する野外学習活動をおこない、郷土の自然に対する理解と愛着を深め、自然環境の保全と共生のまちづくりに生かす。 《事務事業の概要》 動物、植物、地学に関する現地学習会を市内全域を対象に行う。 ◆自然をたのしく学ぶ学習会の開催 (H21実績)	実施日	テーマ	開催場所
環境関連事業		①	21年5月2日(土)		ツツジ・シャクナゲの花を楽しもう	県民の森	26人
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		②	21年5月31日(日)		鳳来寺山で初夏の生きものとモリアオガエルなどを観察しよう	鳳来寺山	47人
		③	21年7月12日(日)		粟代鉱山の見学	東栄町粟代	55人
		④	21年10月11日(日)		きのこを調べよう	うでこき山	45人
		⑤	21年11月15日(日)		鳳来寺山の紅葉を楽しむ	鳳来寺山	30人
		⑥	21年12月6日(日)		豊川の水鳥を観察しよう	桜淵公園	26人
		⑦	22年1月17日(日)		日本一の杉と森の生きものたち	鳳来寺山	32人
		⑧	22年2月14日(日)		冬の自然たんけん	市内	22人
		結果	環境に配慮している				
理由・内容	自然環境を学ぶことで環境保全や環境負荷軽減への意識が芽生える						
市民協働指数	③ 双方対等	課題	・指導者、現地案内人の育成が重要である。 ・市民の積極的な参加と理解者の拡大を進める必要がある。 ・子どもの興味を引き出す講座内容を工夫する必要がある。 ・子どもの受講環境を整備する必要がある。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1																					
個別目標	1	地域の環境を学びます																									
基本方針	子どもから高齢者まで、多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう、野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。																										
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法																					
【文化課】 子ども自然講座開催事業		実施数	4回	4回	4回	開催回数／目標値×100																					
		事業に対する評価 ※1																									
		必要性	2																								
		有効性	3																								
		効率性	2																								
		公平性	1																								
		適時性	2																								
		21年度総合評価	10																								
		担当課判定	B																								
		環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 新城市の豊かな自然に接する野外学習活動をおこない、郷土の自然に対する理解と愛着を深め、自然環境の保全と共生のまちづくりに生かす。 《事務事業の概要》 動物、植物、地学に関する自然学習講座を子どもを対象に行う。 ◆子ども自然講座の開催(H21実績) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>テーマ</th> <th>開催場所</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>21年7月26日(日)</td> <td>鳳来寺山の魚や獣を調べよう</td> <td>鳳来寺山・博物館</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>21年8月9日(日)</td> <td>コケの楽しさ -小さくてふしぎな日陰もの-</td> <td>鳳来寺山・博物館</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>21年8月30日(日)</td> <td>川砂の観察 -砂の中から宝石や鉱物を取り出す-</td> <td>音為川・博物館</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>21年5月10日～11月29日</td> <td>川辺の学校「生きもの教室」</td> <td>海老川</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table>		実施日	テーマ	開催場所	参加人数	①	21年7月26日(日)	鳳来寺山の魚や獣を調べよう	鳳来寺山・博物館	8人	②	21年8月9日(日)	コケの楽しさ -小さくてふしぎな日陰もの-	鳳来寺山・博物館	1人	③	21年8月30日(日)	川砂の観察 -砂の中から宝石や鉱物を取り出す-	音為川・博物館	16人	④	21年5月10日～11月29日	川辺の学校「生きもの教室」
	実施日	テーマ	開催場所		参加人数																						
①	21年7月26日(日)	鳳来寺山の魚や獣を調べよう	鳳来寺山・博物館		8人																						
②	21年8月9日(日)	コケの楽しさ -小さくてふしぎな日陰もの-	鳳来寺山・博物館		1人																						
③	21年8月30日(日)	川砂の観察 -砂の中から宝石や鉱物を取り出す-	音為川・博物館		16人																						
④	21年5月10日～11月29日	川辺の学校「生きもの教室」	海老川		60人																						
環境関連事業																											
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～																											
結果	環境に配慮している																										
理由・内容	自然環境を学ぶことで環境保全や環境負荷軽減への意識が芽生える																										
市民協働指数	③ 双方対等	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者、現地案内人の育成が重要である。</li> <li>・市民の積極的な参加と理解者の拡大を進める必要がある。</li> <li>・子どもの興味を引き出す講座内容を工夫する必要がある。</li> <li>・子どもの受講環境を整備する必要がある。</li> </ul>																								

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1											
個別目標	1	地域の環境を学びます															
基本方針	子どもから高齢者まで多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。																
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法											
【文化課】 屋根のない博物館ガイド ツアー事業		ツアー参加者の満足度	-	97%	80%	受講者／目標数×100											
		事業に対する評価 ※1															
		必要性	2														
		有効性	3														
		効率性	2														
		公平性	2														
		適時性	2														
		21年度総合評価	11														
		担当課判定	B														
		環境視点分類※2		主な活動記録  《基本事業の目的》 新城市の豊かな自然に接する野外学習活動をおこない、郷土の自然に対する理解と愛着を深め、自然環境の保全と共生のまちづくりに生かす。 《事務事業の概要》 動・植物、地質の自然や景観等を総合的に巡る、ふるさとの自然探訪を市内全域を対象に行う。 ◆屋根のない博物館ガイドツアーの開催 (H21実績) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>テーマ</th> <th>開催場所</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>21年12月19日(日)</td> <td>日本の地質百選『鳳来寺山』の地質と自然環境</td> <td>鳳来寺山</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>22年2月21日(日)</td> <td>大地を裂いたマグマの通路・奥三河の岩脈群</td> <td>新城市内</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>		実施日	テーマ	開催場所	参加人数	①	21年12月19日(日)	日本の地質百選『鳳来寺山』の地質と自然環境	鳳来寺山	25人	②	22年2月21日(日)	大地を裂いたマグマの通路・奥三河の岩脈群
	実施日	テーマ	開催場所		参加人数												
①	21年12月19日(日)	日本の地質百選『鳳来寺山』の地質と自然環境	鳳来寺山		25人												
②	22年2月21日(日)	大地を裂いたマグマの通路・奥三河の岩脈群	新城市内		21人												
環境関連事業																	
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～																	
結果	環境に配慮している																
理由・内容	自然環境を学ぶことで環境保全や環境負荷軽減への意識が芽生える																
市民協働指数	③  双方対等	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者、現地案内人の育成が重要である。</li> <li>・市民の積極的な参加と理解者の拡大を進める必要がある。</li> <li>・子どもの興味を引き出す講座内容を工夫する必要がある。</li> <li>・子どもの受講環境を整備する必要がある。</li> </ul>														

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	2 地域の環境を調査し紹介します						
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 自然環境調査事業		特別展の開催	—	4,168人	5,000人	見学者数/目標値×100	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	1				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	2				
		21年度総合評価	11				
		担当課判定	B				
		環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 自然環境の実態を把握するための基礎調査を実施し、標本・資料の収集を行うとともに内容を公開し、環境保全・共生・活用のための基礎資料とする。 《事務事業の概要》 博物館を拠点として、地学、植物等について市内全域の調査を行い標本資料及び、データの収集を行い、報告書を作成する。 【自然環境基礎調査】(H21実績) ・新城市内の昆虫相の調査 ・新城市内シイ林の菌類調査 ・新城市内の豊川支流の魚類調査 ・新城市内の植物相調査			
環境事業							
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～							
結果	環境に配慮している						
理由・内容	自然環境を把握し、調査報告。						
市民協働指数	③						
市民協働指数	双方対等						
		課題	・専門家と市民、ボランティア等の協力、連携体制を構築し、精度の高い情報収集が必要である。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1
個別目標	2	地域の環境を調査し紹介します				
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【文化課】 新城版レッドデータブック 作成事業	特別展の開催	—	4,168人	5,000人	見学者数/目標値×100	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	2				
	有効性	1				
	効率性	3				
	公平性	2				
	適時性	2				
	21年度総合評価	10				
	担当課判定	D				
	環境視点分類※2		主な活動記録	《基本事業の目的》 自然環境の実態を把握するための基礎調査を実施し、標本・資料の収集を行うとともに内容を公開し、環境保全・共生・活用のための基礎資料とする。		
環境事業		《事務事業の概要》 自然環境基礎調査の結果をもとに、絶滅の恐れのある動植物等、野生生物の生息・生育状況を解説した資料集を作成する。				
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		【新城版レッドデータブックの作成】(H21実績)				
結果	環境に配慮している	・自然環境基礎調査に基づいて検討				
理由・内容	自然環境を把握し、調査報告。					
市民協働指数	③	・専門家と市民、ボランティア等の協力、連携体制を構築し、精度の高い情報収集が必要である。				
	双方対等	・過去の基礎資料、情報は不十分であり、今後は愛知県及び環境庁のレッドデータブックを参考にしつつ検討する必要がある。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1
個別目標	2	地域の環境を調査し紹介します				
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【文化課】 「新城の自然誌」発行事業	特別展の開催	—	4,168人	5,000人	見学者数/目標値×100	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	2				
	有効性	3				
	効率性	2				
	公平性	2				
	適時性	2				
	21年度総合評価	11				
	担当課判定	B				
	環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 自然環境の実態を把握するための基礎調査を実施し、標本・資料の収集を行うとともに内容を公開し、環境保全・共生・活用のための基礎資料とする。 《事務事業の概要》 合併後市制10周年を記念して新城市の自然環境の実態を、調査地学、植物等について市内全域にわたり調査する。調査の結果を踏まえ新城市史「自然編」として刊行し、広く市民に周知し、郷土の自然の理解と愛着を深めるとともに、将来への資料とする。 【事業の内容】(H21実績) ・自然環境基礎調査に基づいて検討			
環境事業						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～						
結果	環境に配慮している					
理由・内容	自然環境を把握し、調査報告。					
市民協働指数	③					
課題	・専門家と市民、ボランティア等の協力、連携体制を構築し、精度の高い情報収集が必要である。 ・自然誌の内容、体裁等の検討が必要である。					
双方対等						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	1	農村環境を保全します					
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【鳳来地域整備課】 千枚田の保全事業		イベント参加者数	200人	235人	300人	各種組織（団体）の役員に依頼	
		見学者数	10,000人	13,000人	14,500人	ふるさと水と土指導員に依頼	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	2				
		効率性	2				
		公平性	2				
		適時性	2				
		21年度総合評価	11				
		担当課判定	A				
環境視点分類		<b>主な活動記録</b> 《基本事業の目的》 棚田が持つ水源かん養、国土保全、良好な景観形成などの多面的な機能を維持発揮するため、都市部住民の参加も得ながら、新たな利活用にも向けた活動を推進する。 《事務事業の概要》 ボランティアによる棚田の環境整備や、都市部住民の稲作体験、自然観察会等を行う。 【千枚田の保全】(H21実績) ・千枚田周辺の環境整備 草刈り(年4回実施) ・子ども農学校等稲作体験(田植え～稲刈り)の実施 稲作体験の実施 ・里山ウォーキング(自然観察会)の実施 自然観察会の実施 ・ボランティアの参加と交流 ボランティアの受入 ・全国棚田(千枚田)サミット参加 サミット参加					
環境事業							
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～							
結果	一部課題がある						
理由・内容	減農薬により環境に配慮した稲作を行っているが、また耕作者全員が行っていない。						
市民協働指数	④						
市民主導	課題						
			・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2																									
個別目標	1	農村環境を保全します																													
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。																														
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法																									
【農業振興課】 農村環境向上対策事業	環境向上活動参加者	-	4,192人	3,900人	年度末																										
	生物の生息状況調査	16地区	11地区	16地区	年度末																										
	事業に対する評価 ※1																														
	必要性	3																													
	有効性	3																													
	効率性	3																													
	公平性	2																													
	適時性	3																													
	21年度総合評価	14																													
	担当課判定	A																													
環境視点分類※2		<b>主な活動記録</b> 《基本事業の目的》 社会共通資本である農地・農業用水等の資源を将来にわたって良好な状態で保全管理するため、共同事業を対象とした保全向上活動を支援する。 《事務事業の概要》 誘導部分(施設の長寿命化及び生態系、景観保全)と基礎部分(施設の保全管理)について活動計画を策定し、共同作業を実施する。 【農村環境向上活動】(H21実績) 市内19地区で協定による農地保全のための活動が行われ、その内11地区においては生態系や水質の保全活動、13地区において景観形成や生活環境の保全活動を行っています。 【平成21年度の活動組織(生態系や水質の保全活動)】																													
環境関連事業																															
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～																															
結果	環境に配慮している																														
理由・内容	地域で定期的に河川の清掃や水生生物調査を実施して環境保全などの意識が芽生える。																														
市民協働指数	②																														
行政主導	課題																														
			・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。 ・活動計画に基づく共同活動が実践されていると認められるが、取り組みの質的向上が求められる。																												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>活動組織名</th> <th>地区名</th> <th>活動組織名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上平井</td> <td>上平井地域環境保全隊</td> <td>豊島</td> <td>豊島環境保全会</td> </tr> <tr> <td>片山</td> <td>片山地域環境保全隊</td> <td>田代</td> <td>田代地域環境保全隊</td> </tr> <tr> <td>牛倉</td> <td>牛倉地域環境隊</td> <td>黒瀬</td> <td>黒瀬美土里会</td> </tr> <tr> <td>鳥原</td> <td>鳥原地区環境保全会</td> <td>善夫</td> <td>善夫守里隊</td> </tr> <tr> <td>浅谷</td> <td>浅谷地域の環境を守る会</td> <td>菅沼</td> <td>菅沼を良くしまい会</td> </tr> <tr> <td>石田</td> <td>石田の地域環境を守る会</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	地区名	活動組織名	地区名	活動組織名	上平井	上平井地域環境保全隊	豊島	豊島環境保全会	片山	片山地域環境保全隊	田代	田代地域環境保全隊	牛倉	牛倉地域環境隊	黒瀬	黒瀬美土里会	鳥原	鳥原地区環境保全会	善夫	善夫守里隊	浅谷	浅谷地域の環境を守る会	菅沼	菅沼を良くしまい会	石田	石田の地域環境を守る会		
地区名	活動組織名		地区名	活動組織名																											
上平井	上平井地域環境保全隊	豊島	豊島環境保全会																												
片山	片山地域環境保全隊	田代	田代地域環境保全隊																												
牛倉	牛倉地域環境隊	黒瀬	黒瀬美土里会																												
鳥原	鳥原地区環境保全会	善夫	善夫守里隊																												
浅谷	浅谷地域の環境を守る会	菅沼	菅沼を良くしまい会																												
石田	石田の地域環境を守る会																														

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	2	森林環境を保全します				
基本方針	水源のかん養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの公益的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。					
主な事業		成果指標	基準年(H19)	実績(H21)	目標(H23)	成果指標の計測方法
【森林政策課】 市民参加の森づくり 推進事業	参加者数	—	436人	300人	実績参加者数／目標参加者数	
	満足度・理解度	—	100%	100%	参加者アンケート	
	NPO等との連携状況	—	累計1件	累計2件	実績件数／目標件数	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	2				
	効率性	3				
	公平性	3				
	適時性	3				
	21年度総合評価	14				
担当課判定	A					
環境視点分類 ※2		主 な 活 動 記 録				
環境関連事業		<<基本事業の目的>> ・森林体験学習を実施・推進することにより、「森づくり」と「人づくり」を行う。 <<事務事業の概要>> ・地域再生計画「森林総合産業の創出」の一環として、森林を対象とした体験学習を開催する。 【H21活動実績】 【しんしろ森の学校（初心者向けの体験学習コース）】 ・6回開催（場所：庭野市有林） ・参加者 のべ147人（応募者、真剣隊ほか） ・整備面積 1.1ha 【市民管理の森づくり（中級者向けの人材育成コース）】 ・4回開催（場所：門谷市有林、富岡五葉の森、黒田市有林） ・参加者 のべ99人（応募者、真剣隊ほか） ・整備面積 1.7ha 【森林ボランティアリーダー養成講座（上級者向けの指導者養成コース）】 ・10回開催（場所：門谷地内、県民の森） ・参加者 のべ155人（応募者、真剣隊ほか） ・整備面積 3.2ha 【学校出前教室（児童を対象とした森林学習会）】 ・1回開催（場所：鳳来中部小学校周辺山林） ・参加者 児童等35名				
結果	環境に配慮している					
理由・内容	市民参加の森づくりを通して、森林の有する公益的機能の発揮に貢献している。					
市民協働指数	②	課 題				
行政主導		・より多くの市民に参加していただけるように事業内容の見直しを適時に行う必要がある。 ・市民に広く知っていただくため、効果的にPRを行う必要がある。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	2	森林環境を保全します					
基本方針	水源のかん養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの公益的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。						
主な事業		成果指標	基準年(H19)	実績(H21)	目標(H23)	成果指標の計測方法	
【森林政策課】 水源林対策事業		間伐実施面積	—	1,236ha	1,578ha	実績面積／目標面積	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	3				
		21年度総合評価	14				
		担当課判定	A				
		環境視点分類 ※2		《基本事業の目的》 ・森林の適切な管理により、水源かん養機能の向上を図る。			
環境関連事業		《事務事業の概要》 ・豊川水系の水資源の安定確保を図るため、本市の水源かん養林保全のため森林整備を行い、もって森林の有する公益的機能の発揮と林業の振興を図る。					
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		【事業の内容】(H21実績) ・造林、下刈り、枝払いの実施 41.58ha ・除伐、間伐の実施 190.50ha ・作業路の新設 745.1m					
結果	環境に配慮している	主 な 活 動 記 録					
理由・内容	水源林の間伐を実施することにより、森林の有する公益的機能の発揮に貢献している。						
市民協働指数	①	課 題 ・計画区域は市内全域の広大な施業区域となるため、計画的に効率的で効果的な事業を行う必要がある。					
行政主体		・森林の有する公益的機能が発揮されるためには、適切な間伐等、健全な森林の育成を図ることが必要である。					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	2	森林環境を保全します					
基本方針	水源のかん養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの公益的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【森林政策課】 森林資源調査・研究事業		森林学習会参加者数	-	50人	80人	実績参加者数/目標参加者数/年度末	
		参加者満足度	-	62%	100%	参加者アンケートの実施	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	2				
		効率性	2				
		公平性	3				
		適時性	3				
		21年度総合評価	13				
		担当課判定	A				
環境視点分類 ※2		《基本事業の目的》 ・基本となる林業や製材業をベースにしながら、公共財としての森林の環境面に配慮した新産業による地域経済の活性化と新規雇用の創出を図る。					
環境関連事業		《事務事業の概要》 ・森林資源の利活用等に係る調査・研究を行い、事業化の検討を行う。					
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		【事業の内容】(H21実績) ・森林資源の利活用にかかわる技術と仕組みの調査・研究及び森林学習会の開催。 【森林学習会『森に眠る命と宝』の開催】 ・身近にありすぎて見過ごされがちな「森」が持つ価値を、『生物多様性』をキーワードに読み解き、森と人との関わり方を「森林資源の活用と生物多様性のバランス」という視点から考える。					
結果	環境に配慮している	・開催日 平成22年2月14日(日) ・会場 新城市鳳来開発センター ・講師 大場龍夫氏 (株)森のエネルギー研究所 代表取締役 中川芳江氏 (株)ネイチャースケープ 専務取締役 ・参加者数 50人					
理由・内容	森林学習会の内容は、バイオマスと生物多様性に関するもので、環境に配慮した内容である。						
市民協働指数	②	・事業化へ向けて検討しているが、採算性等の問題から事業実施は困難な状況であるが、引き続き検討をしていく必要がある。					
	行政主導	・木材の安定供給を図ることが必要である。					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	3	水辺の環境を保全します					
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。 また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【環境課】 水質浄化・管理事業		水質検査・結果検証	322	322	384	地点数×測定回数×項目	
		水生生物調査割合	—	64.0%	65.0%	実施件数/要望件数/年度末	
		ボランティア等による河川水質検査の実施	—	5	7	ボランティア等による検査実施数/年度末	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	2				
		効率性	3				
		公平性	3				
		適時性	2				
		21年度総合評価	13				
担当課判定	A						
環境視点分類※2		《基本事業の目的》 市民の生活環境の保全と健康の保護をはかるため環境状況の指標となる物質や人体に有害な物質などの現状把握、経年の推移を調査測定し公表するとともに、水質変化の原因による対策を講じ環境保全対策の基礎資料とする。					
環境事業		《事務事業の概要》 年2回、市内32河川において、pH、BODなど9項目の検査を実施し、市内河川の水質状態を把握する（矢作川水系巴川のみ6項目の検査）。また、市内小中学校や地域ボランティア団体から水生生物調査の要望があった際に調査をサポートすることで身近な水辺環境保全への理解を深める。					
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		【河川の水質調査】(H21実績) ■新城地区：豊川水系13河川13箇所 ■鳳来地区：豊川水系14河川15箇所 ■作手地区：豊川水系3河川及び矢作川水系1河川の4箇所					
結果	環境に配慮している	【水生生物調査】 ■実施団体：5小学校・2中学校・2団体 ■実施回数：13回 ■調査河川：9河川 ■調査期間：H21.6.25～H21.8.23 ■参加人数：延べ405名 ■調査結果：水質階級Ⅰ=39%、水質階級Ⅱ=46%、水質階級Ⅲ=15%、水質階級Ⅳ=0%					
理由・内容	○水生生物調査 ・地域で水生生物調査を実施することにより、河川の水質保全の必要性や、河川愛護の重要性を学び、地元の川を自分達で守ろうという意識の高揚にもつながる。	主な活動記録					
市民協働指数	②	課題 ・定期の河川水質検査結果が、複数年にわたり水質基準を超えている河川に対し、具体的な改善策（生活排水対策等）をとることが必要。 ・より多くのボランティア団体が水生生物調査に参加していただくため、支援体制を強化（指導者の育成など）が必要。					
	行政主導						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	3 水辺の環境を保全します						
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。 また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 湿原環境整備事業		生態系の調査	-	実施	実施	パトロール員による調査	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	1				
		効率性	1				
		公平性	3				
		適時性	2				
		21年度総合評価	10				
		担当課判定	B				
		環境視点分類※2		<b>主な活動記録</b> 《基本事業の目的》 中間湿原の環境保全を始め市内文化財の保護を進める。 《事務事業の概要》 湿原に見られる貴重な植物や動物の生態系を保護・保全し、自然環境の整備活動を行う。 【草刈等の環境整備】 (H21実績) 実施回数： 1回/年 参加者： 個人 【環境パトロール】 実施回数： 30回/年 参加者： 作手自然愛好会 自然環境の維持を図るため、周辺地から侵食してくる雑草等の繁茂のスピードを遅らすように、草刈り等を実施した。また、その変移の様子を記録することなどのパトロールを実施した。			
環境事業							
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～							
結果	環境に配慮している						
理由・内容	現状維持に努めた。						
市民協働指数	②						
行政主導	課題						
		・ 中間湿原群は広く点在するため、保全には行政、市民、団体の連携が必要である。 ・ 多自然型河川は事業費が高額となる。 ・ 湿原の野地化が進んでいる。					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	3 水辺の環境を保全します					
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【土木課】 河川改修事業	野生生物の確認	-	1	確認の有無	野生生物の生息状況を確認	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	1				
	効率性	2				
	公平性	3				
	適時性	2				
	21年度総合評価	11				
	担当課判定	B				
	環境視点分類※2		主な活動記録	《基本事業の目的》 河川の氾濫を未然に防ぎ生活環境、自然環境の改善を図る。		
環境事業		《事務事業の概要》 準用河川五反田川河川改修				
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		【準用河川五反田川改修】(H21実績) 河川改修工、落差工 植生ブロック 449㎡施行 カメブロック (ブリードロック) L=21m施行 魚巢ブロック L=20m施行 斜路付き階段ブロック工 1箇所 環境配慮施行 汚濁防止に配慮				
結果	環境に配慮している					
理由・内容	水生生物の生息環境を確保するため、魚巢ブロック等					
市民協働指数	①	課題 ・ 中間湿原群は広く点在するため、保全には行政、市民、団体の連携が必要である。 ・ 多自然型河川は事業費が高額となる。				
	行政主体					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3	
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます					
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【環境課】 エコオフィス推進事業 (環境行動配慮事業)	環境視点分類※2 環境事業	累計発電容量	586kw	942.65kw	2000kw	電力会社との契約容量累積	
		補助キロワット数	—	260.61kw	250kw	年度末補助実績 (kw) を集計	
		緑のカーテン取組者数	2団体	44	100	市役所内試行セクション及び一般取組家庭数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	2				
		公平性	2				
		適時性	3				
		21年度総合評価	13				
担当課判定	A						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～		主な活動記録 《基本事業の目的》 地球温暖化のため、家庭における二酸化炭素の削減と環境保護への啓発を図る。 《事務事業の概要》 京都議定書に記された二酸化炭素削減率を達成するため、地域推進計画の策定や各取り組みの啓発・推進、住民活動の支援などを行う。 (家庭の紙、ごみ、電気の削減に対する取り組み) 【住宅用太陽光発電設置費補助】 (H21実績) ・70基、260.61kw、5,900,000円 (上限額100,000円) 【各種モニター制度】 (H21実績) ・省エネナビ (配電盤設置型家庭用電気使用量表示機) 9名 ・エコワット (コンセント設置型家庭用電気使用量表示機) 5名 ・自動車用燃費計 3名 【緑のカーテン事業】 (H21実績) ・市役所施設への設置 10箇所 (18課が取り組み実施) ・市内一般家庭を対象とした「緑のカーテン倶楽部」参加者 24名 【しんしろエコ・ライブラリー (環境図書等貸出事業)】 (H21実績) ・不都合な真実 (DVD)、図書等の貸出 4名 (H21.12～H22.3) 【電気自動車の活用】 (H21実績) ・電気自動車の展示・体験乗車会の開催 7回					
結果	環境に配慮している						
理由・内容	家庭や事務所などにおける化石燃料消費低減など温室効果ガス削減に向けた取り組みである。						
市民協働指数	②						
行政主導	課題						
			・国の動向 (事業仕分け、フィードインタリフ) などの動向を注視しながら、制度設計を検討。 ・モニター制度などに対する住民へのPR。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【環境課】 エコアクション推進事業 (環境活動改善事業)	講座への出席者数	151人	117人	60人×実施回数	市民環境講座への出席者数	
	エコアクション事業への参加者数	1000人	2000人	2000人	キャンドルナイトなどへの参加者数	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	2				
	有効性	3				
	効率性	2				
	公平性	2				
	適時性	3				
	21年度総合評価	12				
	担当課判定	A				
環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 個々の活動（点）を面への取り組みへ【市民力の育成】 《事務事業の概要》 地球規模で深刻化する環境問題に対し、身近なところで着実に取り組んでいる市民及び市民団体の活動を支援するとともに、活動している市民や市民活動団体のネットワークの充実を図る。また、環境活動に関する学習の機会や情報提供を行い、新城市全体の取り組みを充実させ、市民・事業所・行政が協働して、環境首都を目指す。 【市民環境講座開催】(H21実績) ・生物の多様性ってなに？～生き物が告げる地球の危機～ 60人 ・地球温暖化と暮らし～私にできることって何だろう～ 57人 【キャンドルナイト新城2009】(H21実績) 実行委員会方式により実施（2幼稚園、10保育園、一般1団体参加） イベント実施にあたり、市内の14企業からご協力をいただいた。 【チーム・マイナス6%からチャレンジ25キャンペーンのPRへ】 国では、地球と日本の環境を守り未来の子どもたちに引き継いでいくため、これまでの地球温暖化防止キャンペーン「チーム・マイナス6%」から、より多くの二酸化炭素削減に向けた国民的運動「チャレンジ25キャンペーン」として、平成22年1月14日より新たな展開をすることとなり、市においても「チーム・マイナス6%しんしる」を軸にした普及啓発から「チャレンジ25新城」へと移行することとなりました。 【温暖化に関する出張授業】 3小学校、1団体、1企業に実施 【親と子の走る環境教室】 夏休み期間2回実施				
環境事業						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～						
結果	環境に配慮している					
理由・内容	キャンドルナイトにしても直接影響より間接影響が大きくなるような仕掛けを考えている。(直接影響:火を灯す。観覧に車を使う。→間接影響:行事参加により以降の行動を考える。)					
市民協働指数	③					
課題	・環境講座に対する市民ニーズの把握。 ・エコアクション関連費用負担の公平性の確保。 ・市内団体、市外団体との連携。					
双方対等						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【環境課】 エコガバナンス推進事業 (環境連携構築事業)	環境基本計画の推進	年次報告書作成	年次報告書作成による進行管理	年次報告書作成による進行管理	年次報告書の発行	
	事業所とのコミュニケーション	年4回以上実施	年4回以上実施	年4回以上実施	市内事業所とのコミュニケーション会議開催	
	アジェンダ21の策定	-	-	計画策定	H22年度に委員会立ち上げ	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	2				
	効率性	2				
	公平性	3				
	適時性	3				
	20年度総合評価	13				
担当課判定	A					
環境視点分類※2		主な活動記録	《基本事業の目的》 環境に基軸を置いた持続可能な市民自治社会の確立			
環境事業			《事務事業の概要》 平成13年2月28日に審査登録された旧新城市役所のISO14001を平成18年2月に「しんしるエコガバナンス」への取り組みへ変更した。しんしるエコガバナンスとは環境に基軸を置き、持続可能な市民自治社会を確立しようとするものである。			
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～			【環境報告書】(H21実績) ・年次報告書として作成（平成21年度版より、環境基本計画の5つのビジョンに沿った構成とし、また総合計画の基本戦略のひとつ「環境首都創造」に関連する事務事業シートを添付しました。）			
結果	環境に配慮している		【ISO14001認証取得事業所等連絡会議】(H21実績) ・定例開催4回（5月、8月、11月、2月）			
理由・内容	全体が環境育成型市民自治社会構築に向けた仕組みづくりを目標とした施策である。		【環境首都コンテスト全国フォーラム】(H21実績) ・11月24～25日 愛知県安城市にて開催：市長ほか職員2名参加			
市民協働指数	②		・市民自治基本条例と行政評価システムとの関連づけ			
行政主導			・総合計画と連動し実効性を持たせるものとするため、計画・実施・評価を市民・事業所・行政（関係部署の積極的な参加・協力）と協働して行うことが必要。今後の環境技術や新たな課題に左右されることがあるため、計画の見直し等は的確に判断する。			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 汚泥処理センター建設運営事業	新施設計画策定庁内検討	—	—	課内検討会議2回	2回	施設検討会議年2回程度実施
	旧施設の撤去	—	—	—	—	平成30年度末
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	3				
	効率性	3				
	公平性	3				
	適時性	3				
	21年度総合評価	15				
	担当課判定	A				
環境視点分類※2		<b>主な活動記録</b> 《基本事業の目的》 保全を目指した生活排水処理の推進を図る及び経済運転をしたい。 《事務事業の概要》 昨今の厳しい財政状況の中で、新し尿処理施設建設については多額の費用を要する事から実現の可能性が難しいところですが、愛知県において「流域下水道におけるし尿処理場からの排水取扱い基本方針」が平成21年4月1日付けで定められたことから流域下水道への投入が可能となったことから、現施設の延命化及び下水道投入に向けての基本計画の策定 【内容・課内検討会議など】(H21実績) 施設整備方針の策定にあっては、合併処理浄化槽の普及等を予測すると同時に、下水道事業等、各種生活排水処理事業との整合性を考慮しなければならず、庁内担当課との協議を行い、市における生活排水処理の現状把握並びに総合的な将来計画を立てる必要がある。 次年度に生活排水処理基本計画を策定することとし、策定に向けて、関係データの整理及び課内において策定スケジュールや方針等について会議を実施した。				
環境事業						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～						
結果	環境に配慮している					
理由・内容	施設の水質を管理、運営を維持し、環境保全を図っている。					
市民協働指数	①					
行政主体						
課題			・迷惑施設建設に対して、地元住民の理解および協力が必要条件である。 ・現在の施設は、約60年経過し老朽化が著しく、建設時期が来ている。			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 埋立処分場整備事業	事業の進捗 (焼却灰処理方法の決定)	施設の維持管理		方針決定	施設の維持管理	適正な維持管理
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	2				
	効率性	2				
	公平性	3				
	適時性	3				
	21年度総合評価	13				
	担当課判定	A				
	環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 一般廃棄物（焼却灰）の適正処理 《事務事業の概要》 現在の焼却灰埋立処分場（有海）の埋立残余年数が6年程度になったため、新たな焼却灰埋立処分場を整備する。 ※この事業は平成21年度で終了。 ごみ処理基本計画（平成22年度策定）において、有海処分場は焼却灰埋立完了後、七郷一色処分場を焼却灰埋立に対応した施設に改良をして埋立を継続する方針が示されたため。			
環境事業						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～						
結果	課題がある					
理由・内容	最終処分場が、県立自然公園内に位置するため、施設を拡大・新設する事が困難					
市民協働指数	②					
行政主導	課題					
		・埋立処分場の新設には住民の理解や多額の費用が必要となるため、現在保有する施設の延命と計画的な処理に努める。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針		市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。				
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 廃棄物収集運搬・収集処理事業		市内全地区週2回収集	2359人	7613人	100%	未収集地区における収集拡大人口またはカバー率
		減量化のためのPR活動	19箇所	15箇所	30箇所	説明会等開催回数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	2			
		公平性	2			
		適時性	3			
		21年度総合評価	12			
		担当課判定	A			
環境視点分類※2		<b>主な活動記録</b> 《基本事業の目的》 クリーンセンター西側にストックヤードを整備し3地区に分かれて収集運搬していた資源物の保管を行う。 《事務事業の概要》 資源物を保管する施設としてストックヤード(資源集積センター558㎡)を建設、稼動し、廃棄物収集車輛の管理およびクリーンセンターとの一括運営を図りながら効率の良い収集、運搬、処理を行う。平成21年度中に鳳来全地区2回収集体制が完了し、平成22年度からの作手地区2回収集実施により市内全域完全2回収集体制が整う。 【収集実績等】(H21実績) ・資源集積センター一般搬入件数 1,860件 ・資源集積センター(資源ごみ・有害ごみ)保管量 656トン ・鳳来地区全域で可燃ごみ週2回収集を実施(対象人口7,613人) ・不燃物収集車の更新 1台 ・分別説明会等の開催 15箇所				
環境関連事業						
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～						
結果	環境に配慮している					
理由・内容	ごみの分別が進むことで環境負荷が軽減されます。					
市民協働指数	③					
双方対等						
課題			・ごみの排出抑制を最優先に啓発を行う必要がある。 ・分別や排出のルールについて、市民の理解をより深める必要がある。			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3	
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます					
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【生活衛生課】 クリーンセンター西側整備事業		事業進捗状況	—	3回	植栽・維持管理	地元協議回数等	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	2				
		効率性	3				
		公平性	1				
		適時性	3				
		21年度総合評価	12				
		担当課判定	A				
		環境視点分類※2		主な活動記録 《基本事業の目的》 クリーンセンター西側整備については、センター建設時地元塩沢区との覚書による整備計画があり、平成20年度に資源集積センターが開設され順調に稼動を行っているところであるが、さらにこの西側の整備も進める必要がある。 《事務事業の概要》 約2,000㎡の残地について、平成22年度市土木工事業より発生する残土2,000㎡を搬入・整地後、植栽、軽運動広場、小遊具、外周フェンスの設置を行い、「あーるの里」構想の実現を図るための整備を行う。 【実績等】(H21実績) 塩沢地区との話し合いを進める中で、地域住民の意向を反映した計画とする事ができた。また残土を入れ、土地利用整備の準備が整った。			
環境関連事業							
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～							
結果	環境に配慮している						
理由・内容	整備計画の中に植栽を入れた事で、環境配慮を行った。						
市民協働指数	③						
課題	・地域住民に親しみの持たれる施設となるよう、地元と協働で整備を進めるとともに、整備完了後も適正な管理が求められる。						
双方対等							

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 最終埋立処分場の維持 管理事業	水質検査	基準値達成	基準値達成	項目ごとの基準値	検査項目毎に月1回の検査	
	機器類等施設の維持管理	1回	1回	1回	機器毎に年1回以上点検、確認	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	3				
	効率性	2				
	公平性	3				
	適時性	3				
	21年度総合評価	14				
	担当課判定	A				
環境視点分類※2		<b>主な活動記録</b>	《基本事業の目的》			
環境事業			埋立処分場の安全な運営と維持管理			
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～			《事務事業の概要》			
結果	環境に配慮している		水処理施設の立会い、修繕等の事務、監督			
理由・内容	施設の管理機能を維持することにより、汚水を施設外へ排出しないよう高度処理し、環境の保全を図っている。		【実績等】(H21実績)			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・4施設の水質管理及び水処理施設の設備点検を実施。(月1回以上)</li> <li>・水処理施設、その他附帯設備(遮水シート等)の補修</li> <li>・第5工区堰堤の築堤工事施工(有海)</li> <li>・廃棄物埋立、遮水シート保護工事施工(七郷一色・作手菅沼)</li> <li>・残余容量調査の実施及び整備方針等の策定</li> </ul>			
市民協働指数	①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の残余年数が大幅に延びていることで、今後機器等の劣化が心配されるため、点検補修を計画的に実施する必要がある。</li> </ul>			
	行政主体		課題			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H21)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 クリーンセンター維持管理事業	焼却炉の維持管理	1回	1回	1回	定期点検1回	
	機器類等施設の維持管理	1回	1回	1回	検査項目毎に年1回以上確認	
	事業に対する評価 ※1					
	必要性	3				
	有効性	2				
	効率性	2				
	公平性	3				
	適時性	3				
	21年度総合評価	13				
	担当課判定	A				
環境視点分類※2		主な活動記録	《基本事業の目的》 クリーンセンターの運転を平成30年度以上維持管理できるように。			
環境事業			《事務事業の概要》 現在焼却施設能力1炉 30 t / 日、2炉施設の維持管理。			
環境に配慮した施策の展開 ～環境負荷の軽減環境保全など～			【実績等】 (H21実績) ・総処理量13,311トン（搬入量13,265トン） ・焼却炉稼働日数 1号炉205日、2号炉243日 ・焼却施設点検整備実施			
結果	一部課題がある		・環境測定（排ガス・焼却灰等）実施			
理由・内容	クリーンセンターは、 県の自然公園内にあるため、施設改修の変更は困難		・土壌分析（ダイオキシン類）実施			
市民協働指数	①		・ごみ搬入検査実施			
行政主体			・1号炉耐火物修繕工事施工			
			・2号炉フィードラム修繕工事施工			
			・固定レジプレート交換、ケーシング補修工事施工			
			・ごみクレーン制御装置等設備修繕施工			
		課題 ・日常の処理が滞らないよう、炉の運転管理や機器設備の点検補修を計画的に実施する必要がある。 ・連続運転による炉の高負荷、機器設備等の経年劣化等が起きるため、点検補修期間は休炉しなければならず、また多額の費用を要する。				